

# 「ふるさと演習林」の樹木

井奥恵三

私たちの里山保全活動の実践と教育の場である「ふるさと演習林」は、1998年（平成10年）の台風7号により全面倒壊した混交林を、地球温暖化防止の森林づくりボランティア活動支援事業助成金により、2002年度に整備したものです。

荒れた山林を整備し、植樹や日常の手入れを行うだけでなく、さまざまな学習や実践の場に活用すると共に、子供たちはじめ大勢の人たちが訪れてもらえることを願って「ふるさと演習林」と名付けられました。

日本の代表的な雑木類、花や紅葉を楽しめる木、人はもとより小鳥たちも喜ぶ実のなる木、農家の収入にもつながる木等等、みんなが意見を出し合い合計29種の木々を植樹しました。

植樹日：2003年（平成15年）2月16日と3月9日 場所：和歌山県橋本市隅田町山内  
ヤマザクラ、カシワ、トチノキ、ヤマモミジ、キハダ、アカシデ、ヤマモモ、ヤマツツジ、  
ヤマハゼ、コシアブラ、ムクノキ、ホウノキ、クロモジ、カマツカ、ヤマボウシ、ヤマブドウ、  
エゴノキ、ミツバアケビ、トウゴクミツバツツジ、サルナシ、ケンポナシ、カマツカ、  
カナメモチ、ガmazミ、メグスリノキ、サルナシ、クルミ、アカマツ、クヌギ、コナラ、クリ。

くり けやき ほう とち かしわ  
栗・欒 朴・栃・柏・エゴ・クルミ 15年後の山を夢見て

北村 薫

その後、2004年（平成16年）11月から2005年3月にかけて、演習林拡張事業が実施されました。「ふるさと演習林」の北側には、隣接した別の人が所有する桧の植林山（約30a）がありますが、その南側の斜面（ふるさと演習林の続き）は、台風でほとんどの木が倒れ放置されたままになっていました。尾根筋の北の斜面には倒壊を免れた約20年生の桧も残っています。演習林の活用の上でも景観等の上でも、この山林を我々の手で何とかできないかという思いを抱き、「ふるさと演習林拡張事業」として取り組みました。何回かの臨時活動目も設けて、倒木の片付け、下草刈り、山道の整備、隣接の池に倒れ込んだ多数の「倒木の引き上げ」等々の作業を積み重ね、2005年3月には2回に分けて16種・65本の植樹を実施しました。ふるさと演習林を北に拡張することによって、これまで大いにそこになっていた景観を改善すると共に、現在の演習林には欠けている針葉樹林部分を含んだ新たな林相をも付け加えることができました。その上、この山林の北斜面を下った北端には農業用のため池もあり、その池の持ち主からも、地およびその周辺部を自由に使用してよいとの承諾を得ることができ、より多様で広い演習林にしたいという取り組みは着々と実現されつつあります



植樹日：2005年（平成17年）3月13日と3月27日  
カツラ、コウヤマキ、イチイガシ、マテバシイ、イヌカヤ、イタヤカエデ、オオシマザクラ、  
ウワミズザクラ、ブナ、ヤブツバキ、ケヤキ、（前回植樹種を除く）

（この稿は、会報里山だより25号、32号、33号、総会資料をまとめたものです）

## 本来の植生

植物の群れを、一般的に植生（しょくせい）。さらに外から見たようす（相観）や種類相などで同じような性格をもった植生をまとめて群落と呼んでいます。

日本の温暖な地域は、シイやカシ類などの常緑広葉樹林が発達しています。和歌山県は温暖で多雨な土地のため本来の植生は、てかてかした光沢がある葉（照葉：葉に、乾燥を防ぐためにクチクラ層が発達したもの）をもつ樹林「**照葉樹林**」でした。近畿地方では、降水量の少ない所は**シイカナメモチ群落**が発達し、降水量が多くなると**コジイサカキ群落**が見られます。

## 里山の植生

この**照葉樹林の森**は、暗くじめじめしているため生活には適しません。暮らしやすくするために、私たちの先祖は、人里近くの山を農地に転用しました。転用されなかった森は、住宅や燃料用の木材を切り出し、さらに肥料にするため落ち葉を採取する場としてきました。

「ふるさと演習林」のある和歌山県の紀北地方は、**昭和30年代ころまでアカマツやコナラの森**が広がっていました。私たちの先祖が、暮らしやすい生活をするための空間を作り上げていたのです。元は照葉樹林の広がる森が、生活の場「里山」に適した森（植生）にとって変わりました。（代償植生）

地層に含まれる花粉を分析すると、約2千年前からアカマツが増え始めるそうです。この頃から本来の植生が人為的な影響で壊れ、一般的に陽光を好み日陰を嫌う植物が多く生育し、乾燥にも比較的強い植物が多くなり、「**里山の植生**」が生まれてきました。農山村の生活を長く支えてきた里山の樹木も、戦後の経済復興のためや国の経済政策により、**スギやヒノキの植林**が進み、アカマツやコナラの森が杉や桧の林に変化していきました。経済の発展により里山の森は、消えていったのです。

更に燃料革命や農業の近代化が進み、利用されなくなった雑木林と共に、外国からの安い輸入木材により経済的な価値は失われてしまい。「スギやヒノキの植林山」までも、利用や手入れがされなくなりました。こうして里山は、人間の干渉が無くなると、自然の移り変わりに身を任せるようになりました。手入れされない「**荒れた里山**」として、自然の遷移が進んでいくと、やがて元の照葉樹林の森に還っていくのかもしれない。（この稿は「和歌山の樹木Ⅰ」より）

私たちの活動は、荒れた山林を整備し、植樹や日常の手入れを行うだけでなく、さまざまな学習や実践の場に活用すると共に、子供たちはじめ大勢の人たちが訪れてもらえることを目標にしています。

「ふるさと演習林」のシンボルツリーは、和歌山県の本来の植生である照葉樹林で見られる樹木「**コジイ**」の大木です。

シイやサカキ、カナメモチ、ヤブツバキなどの照葉樹が広がるこの森には、**潜在自然植生である「ふるさとの木」**が今も健在です。明るくなった池を巡る道には、めずらしい季節の山野草の花たちも出迎えてくれます。



「みなさんも是非この森に出かけて、ふるさとの木に出会ってください。」

コジイ、サカキ、ヒサカキ、アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、ネジキ、アオキ、カナメモチ、ネズミサシ、ヤマモモ、ソヨゴ、タカノツメ、アセビ、イヌツゲ、モチノキ、クスノキ、ヤマガキ、モチツツジ、ヤマツツジ、アカメガシワ、コウゾリョウブ、ウワミズザクラ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、アカマツ、コナラ、クヌギ、クリ、タラノキ、ハゼノキ、ヌルデ、クサギ、ヤマウルシ、ウメモドキ、イソノキ、キリ、ニガイチゴ、ノイバラ、ナガバノモミジイチゴ、クサイチゴ、フユイチゴ、サルトリイバラ、フジ、ウツギ、スイカズラ、ヤブコウジ、スギ、ヒノキ、



**イソノキ**      **くろうめもどき科**  
葉の並びはコクサギ型です。



**サカキ**      **つばき科**  
白く美しい花。神様にお供えする木



**ネズミモチ**      **もくせい科**  
やがて、ねずみの糞に似た実になります。



**リョウブ**      **りょうぶ科**  
樹皮が美しい木です。



**ガマズミ**      **すいかずら科**  
赤くおいしい実ができます、



**ヤマゲワ**      **くわ科**  
小かごに摘んだは、まぼろしか

## ふるさと演習林の初夏 ②

2006年6月23日



「ヤマモモ」の大木がある演習林への道は、ハラビロトンボやシオカラトンボ、コシアキトンボが飛び交っていました。



演習林への道で迎えてくれる「ハンミョウ」少し飛んでは止まる様子から「道おしえ」とも言います。日本が誇る甲虫、この美しい模様を見てください



後翅に尾状突起から、名は「ツバメシジミ」  
食草 ミヤコグサ



トンボのような昼間飛ぶ蛾「トンボエダシャク」  
大きさ 55 ミリ 食草 ツルウメモドキ



「ヤブソテツ」の新芽



巨木になる「クスノキ」 くすのき科

# ふるさと演習林」の樹木

観察日 年 月 日

以前からあった木				植樹した木(以前からあった木を含む)			
	種名	科名	特徴		種名	科名	特徴
1	アオキ	ミズキ科		1	アカシデ	カバノキ科	
2	アカマツ	マツ科		2	アカマツ	マツ科	
3	アカメガシワ	トウダイグサ科		3	イタヤカエデ	カエデ科	
4	アセビ	ツツジ科		4	イチイガシ	ブナ科	
5	アラカシ	ブナ科		5	イヌガヤ	イヌガヤ科	
6	イソノキ	クロウメモドキ科		6	イヌマキ	マキ科	
7	イヌツゲ	モチノキ科		7	ウワミズザクラ	バラ科	
8	ウツギ	ユキノシタ科		8	エゴノキ	エゴノキ科	
9	ウメモドキ	モチノキ科		9	オオシマザクラ	バラ科	
10	ウワミズザクラ	バラ科		10	オニクルミ	クルミ科	
11	エノキ	ニレ科		11	カシワ	ブナ科	
12	カナメモチ	バラ科		12	カツラ	カツラ科	
13	キリ	ゴマノハグサ科		13	カナメモチ	クスノキ科	
14	クサイチゴ	バラ科		14	ガマズミ	スイカズラ科	
15	クサギ	クマツヅラ科		15	カマツカ	バラ科	
16	クスノキ	クスノキ科		16	キハダ	ミカン科	
17	クチナシ	アカネ科		17	クヌギ	ブナ科	
18	クヌギ	ブナ科		18	クリ	ブナ科	
19	クリ	ブナ科		19	クロモジ	クスノキ科	
20	コウゾ	クワ科		20	ケケンポナシ	クロウメモドキ科	
21	コジイ	ブナ科		21	ケヤキ	ニレ科	
22	コナラ	ブナ科		22	コウヤマキ	コウヤマキ科	
23	サカキ	ツバキ科		23	コシアブラ	ウコギ科	
24	サルトリイバラ	ユリ科		24	コナラ	ブナ科	
25	スイカズラ	スイカズラ科		25	サルナシ	マタタビ科	
26	スギ	スギ科		26	トウゴクミツバツツジ	ツツジ科	
27	ソヨゴ	モチノキ科		27	トチノキ	トチノキ科	
28	タカノツメ	ウコギ科		28	ブナ	ブナ科	
29	タラノキ	ウコギ科		29	ホウノキ	モクレン科	
30	ナガバノモミジイチゴ	バラ科		30	マテバシイ	ブナ科	
31	ニガイチゴ	バラ科		31	ミツバアケビ	アケビ科	
32	ヌルデ	ウルシ科		32	ムクノキ	ニレ科	
33	ネジキ	ツツジ科		33	メグスリノキ	カエデ科	
34	ネズミサシ	ヒノキ科		34	ヤブツバキ	ツバキ科	
35	ノイバラ	バラ科		35	ヤマザクラ	バラ科	
36	ハゼノキ	ウルシ科		36	ヤマツツジ	ツツジ科	
37	ヒサカキ	ツバキ科		37	ヤマハゼ	ウルシ科	
38	ヒノキ	ヒノキ科		38	ヤマブドウ	ブドウ科	
39	フジ	マメ科		39	ヤマボウシ	ミズキ科	
40	フユイチゴ	バラ科		40	ヤマモミジ	カエデ科	
41	ムクノキ	ニレ科		41	ヤマモモ	ヤマモモ科	
42	モチツツジ	ツツジ科					
43	モチノキ	モチノキ科					
44	ヤブコウジ	ヤブコウジ科					
45	ヤブツバキ	ツバキ科					
46	ヤブニッケイ	クスノキ科					
47	ヤマウルシ	ウルシ科					
48	ヤマガキ	カキ科					
49	ヤマグワ	クワ科					
50	ヤマツツジ	ツツジ科					
51	ヤマモモ	ヤマモモ科					
52	リョウブ	リョウブ科					